

日本100名城 津和野城跡

Tsuwano
Castle
Ruins



津和野城登城のご注意！

足元にご注意を！

城山は足場が悪い箇所が多数ありますので、転倒・転落にご注意ください。

歩きやすい服装、履き物で！

途中、山道や滑りやすい石段を通ります。ヒールの高い靴などでの登城はおすすめしません。

駐車場の場所を要チェック！

観光リフト前駐車場は、スペースに限りがあります。満車の際は太鼓谷稻成神社、津和野高校横の稻成神社駐車場へ。

瓦・植物・岩石の採取はダメ！

城山は国指定史跡です。史跡の保存、風致を維持するためにご協力ください。逆に、石や植物の持ち込みも禁止です。

アクセスと観光リフト情報



津和野城(城跡観光リフト)へのアクセス

【公共交通機関でお越しの場合】

(鉄道)JR津和野駅より太鼓谷稻成神社方面へ徒歩約25分

【自動車でお越しの場合】

(山口方面より)中国自動車道・小郡I.C.→国道9号を益田方面へ約80分

(大阪方面より)中国自動車道・六日市I.C.→国道187号を津和野方面へ約60分

【JR津和野駅より観光リフトまで】

車 津和野駅 → リフト 徒歩 津和野駅 → リフト 25分

城跡観光リフトご利用案内

営業時間 9:00~16:30(下り最終運行 16:20)

※リフト降り場(山上)から城跡までは徒歩20分、往復40分以上かかります。

※15:30以降は上りリフトを利用した場合、下りリフトの最終運行に間に合わない場合があります。その場合は、遊歩道での下山となります。

※工事や天候により、休止する場合があります。

運行日 3~11月は毎日運行 12~2月は土日祝日のみ運行(1/1~1/3は運行)

料 中学生以上/往復:700円、片道:400円(団体往復:600円)

小学生以下/往復:500円、片道:300円(団体往復:400円)

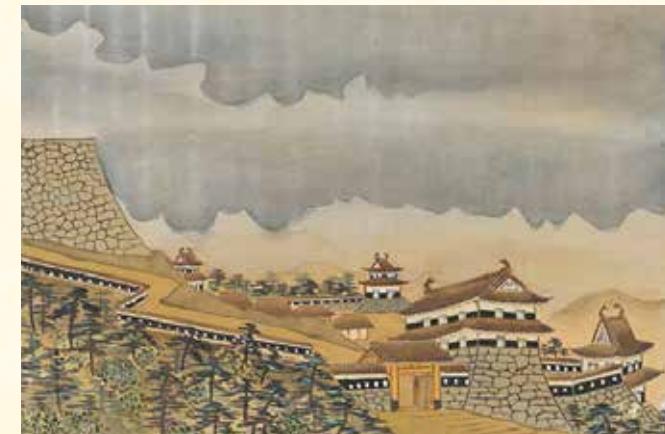
駐車場 乗用車30台

お問い合わせ・連絡先

(一社)津和野町観光協会 ☎0856-72-1771

史跡について 津和野町教育委員会 ☎0856-72-1854

日本遺産となった山城



津和野百景図第一図「三本松城」

日本遺産「津和野今昔～百景図を歩く～」のきっかけとなった『津和野百景図』にも第一図(本丸)、第二図(出丸)が登場します。三本松城(津和野城の別名)は明治初期に取り壊されますが、その直前の幕末(1860年代)の雰囲気が伝わってきます。

日本遺産「津和野今昔～百景図を歩く～」とは？

平成27年、津和野町は「津和野今昔～百景図を歩く～」というストーリーで、文化庁から日本遺産に認定されました。幕末の津和野藩の名所や人々の暮らしを描いた『津和野百景図』。その100枚のうち50枚以上の風景が、今日も残っています。歴史的景観や伝統を受け継ぐ津和野町民の暮らしぶりまでが「遺産」となりました。津和野城登城の前に、日本遺産センターにお立ち寄りください。コンシェルジュが城の見どころを案内します。

津和野町日本遺産センター



津和野城登城記念「御城印」

津和野城跡に「御城印」が登場しました。木目の紙面に吉見氏、坂崎氏、龜井氏の家紋が描かれた、700年の歴史を感じさせるデザインです。「津和野城」「三本松城」の2種類。太鼓谷稻成神社売店にて販売しています。各500円。



山城としては日本一の規模 津和野城



津和野城は標高362mの靈亀山上にある山城です。山麓からの標高差は約200mあり、麓から眺めても、石垣から城下を遠望しても、これぞ山城という景観です。

鎌倉時代の永仁3年(1295)、能登国より下向した吉見頼行が築城をはじめ、30年後、子の頼直の代に完成しました。当初一本松城と呼ばれていましたが、三本松城に名称を変え室町戦国期も改修整備を重ねました。

関ヶ原の合戦後、慶長6年(1601)に津和野藩主(3万石)となった坂崎直盛は高石垣で防備を固めた近世城郭に大改修し、あわせて出丸(縄部丸)も築城しました。元和3年(1617)に因幡国鹿野城(鳥取市)から亀井政矩が津和野藩主(4万3千石)として入城後は城下町を整備し、また城の補修も行いつつ、亀井氏11代の居城として明治維新を迎えることなく、現在まで残っています。

維新後、明治8年(1875)に櫓や城門などの建物は取り壊されました。このように長期間活用された城は珍しく、今日でも「700年の城下町」として地元の誇りとなっています。

見どころ

津和野城は3方向に石垣が突き出した形の本丸、北側に出丸(別名:縄部丸)がある一城別郭の城です。峻険な山の周り三方を津和野川が巡るという地形をいかした実戦的な山城とされています。かつては本丸に三重天守がありました。貞享3年(1686)の雷で焼失した後は再建されませんでした。本丸・出丸以外にも、南出丸や曲輪、堀切、堅堀などの遺構が靈亀山中に点在しています。中世山城と近世山城の遺構が同居し、また中世から近世への“変遷”を見学できる貴重な山城です。中世の城の縄張りは南北2kmにもわたり、また、高石垣を持つ近世の山城としても、規模は日本一とされています。



津和野城関連年表

1274年(文永11)	元寇(文永の役)
1281年(弘安4)	元寇(弘安の役)
1282年(弘安5)	吉見頼行が沿岸防備のため石見へ下向する
1295年(永仁3)	頼行が一本松城の築城をはじめる
1324年(正中1)	一本松城の完成。その後三本松城へと改名
1333年(元弘3/正慶2)	吉見頼直、後醍醐天皇の挙兵に伴い朝廷方で参戦
1467年(応仁1)	応仁の乱 吉見成頼、信頼父子は大内政弘に従い西軍に参戦
1482年(文明14)	信頼が大内氏の重臣陶弘護を殺害 自らも大内家臣に討ち取られる
1551年(天文21)	陶晴賢が大内家に対し下克上 大内義隆は長門にて自刃
1554年(天文23)	陶晴賢に対し吉見正頼が拳兵 晴賢は2万といわれる兵を率いて津和野へ 安芸の毛利元就が周防に侵攻し、陶軍は三本松城攻囲を解いて撤退 正頼は104日間の籠城に耐えた 元就と正頼は連絡していたとも以後吉見氏は毛利陣営へ
1600年(慶長5)	関ヶ原の戦いで吉見広長は所領を没収され毛利輝元とともに萩へ
1601年(慶長6)	坂崎直盛が3万石で津和野城主となる
1601~1615年	坂崎直盛が三本松城を大改築し、城下町整備に着手
1615年(元和1)	大坂夏の陣 直盛が千姫(豊臣秀頼の妻、徳川家康の孫娘)を救出
1616年(元和2)	千姫事件で直盛が非業の死を遂げ(自刃説、暗殺説あり)、所領を没収
1617年(元和3)	因幡鹿野藩の亀井政矩が4万3千石で津和野入城
1676年(延宝4)	大地震により、石垣が崩落し、建物が大破
1686年(貞享3)	落雷により天守などの建物が焼失 天守の再建はされず
1786年(天明6)	8代亀井矩賢が中島に藩校養老館を開校
1853年(嘉永6)	城下町全域で御殿を含む約1800戸の家屋が全焼する大火が発生
1855年(安政2)	藩校養老館を殿町に移設 馬場先櫓、物見櫓、御殿など復興が急ピッチに進む
1867年(慶応3)	大政奉還
1871年(明治4)	廢藩置県
1874~75年(明治7~8)	山城の建物が解体
1942年(昭和17)	津和野城跡が国の史跡に指定

津和野城(城山)の楽しみ方



① 江戸時代の津和野城をVRで体験

天守閣そびえる津和野城の威容を、スマホ等を通じてVRで体験できます。城山の上6ヶ所、山のふもとに1ヶ所、VRポイントがあります。iOS版、Android版とともに、ストアで「ストリートミュージアム」で検索してダウンロード(無料)してください。

② 早朝トレッキングと朝ごはん(要予約)

山城としては日本最大規模の石垣を誇り、靈亀山全体を要塞化した津和野城跡は、絶好のトレッキングコースです。目の前にそり立つ青野山、津和野のまちを一望。晩秋には雲海が広がる景色は、「天下一」と呼びたくなるほど。津和野の歴史と山の植物を熟知したガイドと早朝登山をし、頂上では津和野食材を使った朝ごはんを楽しめます。

参加費／お一人様6,000円(税込)

集合場所／津和野城跡観光リフト乗り場 駐車場

集合時間／7:00

所要時間／約3時間

予約サイト／<https://yuna-tsuwano.jp/>



主催／ウインズ津和野町
観光協会旅行センター



日本100名城®

平成18年(2006)に発表されました「日本100名城®」に津和野城も選ばれています。中世と近世の山城が一体で、山城としては屈指の規模。石垣や整堀、曲輪などの遺構も状態が良く、全国にも類を見ない山城です。観光リフトの乗り場に、100名城スタンプを設置しています。

津和野城周辺MAP



津和野城跡ライトアップ

毎週金曜日、土曜日、日曜日及び祝日
18:00~20:00

※季節によって時間帯を変更する可能性があります。
※ライトアップに合わせたリフト運行等はございません。

週末、天空の城が夜空に浮かび上ります。本丸全体がライトアップされ、石垣の雄大さを感じながら、夜の城下町を散歩するのがおすすめです。

台所櫓・海老櫓跡

三の丸西側に突き出た部分に、台所櫓があり、その先端を海老櫓といいます。城の揚手側を監視・防備するための設備です。手前には西門があり、揚手側に降りる道がありました。

三段櫓跡

本丸の玄関口である東門の正面に見えるのが三段櫓跡です。

それぞれの石垣に二階櫓が建っていましたが、横から見ると三重櫓のように見えたといいます。天守の焼失後は、津和野城の特徴的な建物となっていました。



鷺原八幡宮の大杉(約40分)

南門跡

三の丸

西門跡

東門跡

三十間台

三十間台からは、石見地域独特の赤瓦(石州瓦)で彩られた城下町と、標高907mの青野山の絶景を望めます。歌手のさだまさしさんは、ここからの眺めを、名曲「案山子」の歌詞に織り込んでいます。赤瓦と山々の緑のコントラストが美しく、SL「やまぐち」号が走るときは、城下町が箱庭のように見えます。



人質櫓跡

三の丸の北側、本丸を見上げる石垣の上に人質櫓がありました。津和野城の高石垣がよく見え、記念撮影ポイントとしても人気。



難攻不落の三本松城

津和野城を舞台にした攻城戦といえば、天文23年(1554)の「三本松城の合戦」が代表的です。大内家臣の陶晴賢が、主君義隆に謀反を起こし、義隆を自害に追い込んだ事件(大寧寺の変)が起り、義隆の姉を正室に迎えていた津和野城主吉見正頼が反発。吉見征伐へ晴賢自ら軍勢(総数2万といわれる)を率い、三本松城を包囲しました。陶氏と関係が深い益田氏にも攻められ、正頼は絶体絶命のピンチでした。

正頼は三本松城に籠城し、堅固な城と作戦の巧みさで長期戦に持ち込みました。晴賢が主力を石見へ集めた隙をつき、毛利元就は安芸の大内領を制圧。晴賢は三本松城の攻囲を解いて山口に帰参。翌年、毛利との決戦(巣島の合戦)に敗れ晴賢は自害しました。三本松城の合戦は、元就の中国制覇の発端といっても過言ではなく、特筆すべき合戦の一つです。

本丸

麓からの比高約200mの靈龜山の地形を活かして構築された、津和野城の中核の曲輪です。狭い山上に三角形に高石垣を巡らす形は独特です。最高所は三十間台。その北東に突き出した部分が二の丸(太鼓丸)です。

南側から西側を囲むように広がっているのが三の丸で、櫓と南門がありました。通常、天守台は城の最高所に建てられますが、天守台が一段低い場所にあることは全国的に珍しい配置です。三重の天守は、貞享3年(1686)に雷火で焼失しました。



津和野城跡トレッキングコース



津和野文化ポータルサイトもご覧ください。

靈龜山(城山)ふもとにある馬場先櫓や物見櫓も国の史跡津和野城跡の一部です。津和野藩庁を構成していた建物であり、嘉永の大火灾後、安政2年(1855)に再建後、移築されて残っています。また、亀井氏関連の史跡や文物も多数残っています。

津和野町の文化財や史跡に関しては、津和野町文化ポータルサイトをご参照ください。

<http://tsuwano-bunka.net/>

